修　士　論　文　要　旨

学籍番号　21GH301　第　　号	氏　名
人文社会科学専攻（コース：政策科学）	今井　信喜

論文題目

地域の産業振興政策という観点に立った「弘前ねぷた祭り」の現状と課題

本論考の目的は、地域の産業振興政策という観点に立って「弘前ねぷた祭り」の現状と課題を分析することによって、この祭りを地域の貴重な文化遺産として次世代に伝えていくための方策を検討することである。

「弘前ねぷた祭り」は、その起源にあたるとされる「眠り流し」という行事の時代から現代に至るまで、鎮魂と邪気退散と幸福祈願という宗教的役割や「地域アイデンティティ」の主要なよりどころの一つとしての社会的役割等、様々な役割を果たしてきた。現在の「弘前ねぷた祭り」は、地域の産業振興政策の中で、地域の代表的な観光資源の一つとしての重要な役割を担っている。本論考は、以上の観点に立って「弘前ねぷた祭り」の現状と課題を分析した上で、この祭りを円滑かつ安定的に運営していくための具体的方策を提示することに主眼を置いている。

本論第一章では、地域を代表する文化遺産の一つとしての「弘前ねぷた祭り」の発展とその社会的背景、およびこの祭りの現状について論じている。

「弘前ねぷた祭り」が地域の観光資源として意識され始めたのは、1950年代のことである。この祭りが参加する諸団体による「合同運行」という運行形態をとっていることについて、これらの団体を（a）町会主体の参加団体、（b）企業・公共団体等主体の参加団体、（c）その他の参加団体という三つのカテゴリーに分類した上で、以上の団体が置かれている社会経済状況に焦点をあてている。

第二章では、地域の産業振興政策の推進において、現在の「弘前ねぷた祭り」が直面している諸課題についての分析を行っている。

論者が指摘した課題は、つぎの三点である。1）「弘前ねぷた祭り」の「合同運行」に参加する団体の数をいかに安定的に運営していくかという問題。2）20代から30代にかけての若い世代を中心に、「ねぷた絵」の制作者（ねぷた絵師）をいかに育成していくかという問題。3）この祭りを地域の産業振興政策の中に位置付けつつ、いかに伝統とのバランスをとっていくのかという問題である。

第三章では、前章の問題の指摘を踏まえて、この祭りを地域の代表的な文化遺産の一つとして、次世代に伝えていくための具体的方策について検討している。

そのための具体的な方策として論者が提示しているのは、つぎの点である。すなわち、1）「弘前ねぷた祭り」の参加形態の見直しの一環として、（1）「弘前ねぷた祭り」の「合同運行」への参加諸団体間の連携協力を推し進めること、（2）「弘前ねぷた祭り」の「合同運行」に参加する新たな団体を創出していくこと、（3）弘前市を中心とした近隣市町村との連携協力体制を構築していくこと等である。さらに、2）「弘前ねぷた祭り」の運営等に携わる人材の育成の強化の一環として、「ねぷた絵」の制作者（ねぷた絵師）の経済的自立と社会的地位の向上のための取り組みを強化していくことである。最後に、3）将来的に「弘前ねぷた祭り」を観覧型の観光イベントから参加型の観光イベントへと転換させるにあたって、地域外からの参加者を呼び込むための方策として、国内外の自治体等との連携協力を強化することである。

本論考の要旨については、以上の通りである。